



NPO 法人 緑・ふれあいの家
 (緑地域活動協議会)
 理事長 久木 勝三
 広報委員会
 大阪市鶴見区緑 3-3-3
 電話 (06) 6915-6333



緑納涼盆おどり大会

今までにない猛暑の中、7月14、15日の2日間、緑・納涼盆おどり大会が開催されました。今年、鶴見緑地公園西部コミュニティ広場(東側の広いグラウンド)に変更され、大勢の来場者にも対応できました。陽の沈む前から、人々が集まりだし、屋台の前には少しずつ行列ができました。浴衣を着た子どもたちの歓声があちこちから聞こえ、お祭り開始が近づきます。オープニングセレモニーは、鶴見商業高校ダンス部の若さあふれるダンスで、力強いパフォーマンスに会場は熱気ムンムン。そしていよいよ江州音頭「桜川好一会」によるかけ声が聞こえてきました。まず、浴衣と半被姿の子どもたちがやぐらに上がり、お馴染みの鶴見音頭から始まり、アラレちゃん音頭、ちょいな節、ドンパン節へと繋いでいきます。やぐらの上も1・2年生から3・4年生、最後は5・6年生と踊り手が替わっていきます。やぐらの周りも色とりどりの浴衣に身を包んだ踊り子たちの輪が広がっていきました。生唄での江州音頭となり、鶴見区内で今年一番手となる盆おどり大会はますます盛り上がっていきました。黒半被姿の留学生も踊りの輪に加わり、日本の夏を楽しんでいます。子どもたちは、ダーツ、1円玉落とし、スーパーボールすくいなどを楽しみ、焼きそば、イカ焼き、焼き鳥、かき氷、おでんの屋台は賑わい、行列が絶えることがありませんでした。今年、会場が広がったことについて、踊り手の方々からは、「踊りやすかった。」という声と、若いお母さんからは、「テントの後ろもスペースが広く、ゆっくり楽しめる」と好評でした。来年も今年と同じ場所と期待を膨らませながら、今年の緑・納涼盆おどり大会は幕を閉じました。

6月2日から盆踊り大会に向けてのおけいこが行われ、68名の子どもたちが計5回の練習に参加しました。今年の新曲「音頭福よ来い」では、うちわを使ってちょっとした所作で女の子・男の子それぞれが映える動きを教えていただきました。定番の「鶴見音頭」や「ドンパン節」など合計7曲を練習しましたが、子どもたちの一番人気は「ちょいな節」です。はじめての子ども達は足の運びが難しく、先生方に一緒についてもらいながら練習をしますが、慣れた子ども達は元気いっぱい「ちょいなちょいな〜」「どっこいしょ〜」などの掛け声といっしょに笑顔で踊っています。練習時間に余裕があると必ず「ちょいな節」のリクエストがかかります。「ちょいな節がめっちゃ好きやねん！」と笑顔で話しかけてくれた子もいました。今年の練習は特に暑い日、雨の日が多く大変だったと思いますが、みんなは頑張ってくれて素晴らしい本番を迎えられたと思います。来年もまた元気な「ちょいな節」と、素敵な笑顔を見られる事をとっても楽しみに思います。



〜アンケート結果より〜
 売店コーナーへは、「楽しい」「楽しめた」「美味しい」という感想が多い反面、「行列が多い」「時間がかかりすぎ」とのご意見も多くいただきました。また盆おどり大会全体へのご感想は、「規模が大きくてビックリ」「賑やかで楽しかった」「来年も楽しみ」などが多く、「飲食スペースがあれば…」とのご意見もいただきました。より良いイベント運営を目指し、参考とさせていただきます。



会場近隣の皆様へ
 盆おどり大会開催に、ご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。お陰様をもちまして、地域内外の多くの方々からご好評をいただきながら、無事終えことができましたこと、厚く御礼申し上げます。
 緑納涼盆おどり大会実行委員一同

大阪北部地震・西日本豪雨災害支援
 大阪北部地震・西日本豪雨災害の復興支援にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。募金活動にて皆様からお預かりしたご厚志と、盆おどり大会収益の一部他を併せて、9月中旬までに関係機関を通しまして被災地に贈る予定です。
 NPO 法人 緑・ふれあいの家

家族や大切な人を守るため防災訓練に参加しましょう

NPO法人 緑・ふれあいの家では、10月下旬に防災訓練を計画しています。6月の大阪北部地震や7月の西日本豪雨災害を考えると、今まで地域住民皆様や私たち(地域役員)が考えてきた(知っている)防災・減災の方法を、チェックし地域内に浸透させる必要があります。地域防災を携わっている役員も、常に地域内に居るわけではありません。有事の際は、地域住民の誰もが率先して行動できるようになることが、減災への第一歩と考えます。

ぜひ一度、防災訓練に参加し、その防災・減災方法をご家族やご近所の方々と話し合ってみてください。



【手記:大阪北部地震を経験して】

先日の大阪北部地震には驚きました。被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げます。当日、私は8時前に会社に着いていて、間もなく地震で大きく揺れました。直後にエレベーターは止まっており、私はたまたま21階の事務所にエレベーターで到着していましたが、他の社員の皆さんは21階まで息を切らせながら徒歩でながら上がっていました。すぐに「非常災害対策本部」を立ち上げて社員とご家族の安否を確認し、建物などの被害状況、復旧対応などの把握に努めました。会社での仕事と併行して、家族の状況を確認するため、電話で家族に連絡したのですが、つながりません。正直、焦りました。そして、「LINE」で伝言すると1時間ほどして家族から着信。家はもちろん町内も大きな被害は無さそうと聞きひと安

心。夕刻に帰宅して、家族に地震のことを聞くと家の中が散乱して、片づけるのが大変だったとのこと。私もその週の土日、整理整頓が大変でした。この文章を書いている最中に、改めて「緑地震そなえ隊」の「行動マニュアル」を手にとって見えています。やはりなるほどと感心することばかり。1、2ヶ月前に皆さんのご家庭に配布されています。再度、見られてはいかがですか？

『備えあれば憂いなし』『災害は忘れた頃にやってくる』先人たちの知恵が詰まったマニュアルです。



広報委員 宮城和昭

不定期連載

ちよこっと雑学

東京オリ・パラ2020にむけて、パラリンピックの基礎雑学・第2回パラリンピック第1回大会をご存知ですか？

1960年のローマ大会＝第13回国際ストック・マンデビル大会を「第1回パラリンピック」と国際的に規定しています。その起源はイギリスです。1948年、第2次大戦で脊髄を損傷した傷痍軍人(しょういぐんじん: 戦傷を負った軍人)らを治療していたストックのマンデビル病院でリハビリの為に車椅子のアーチェリー競技会を開催した事から始まります。そして1964年の「東京パラリンピック大会」は、車椅子の「ストック・マンデビル競技会」を第1部とし、第2部として全身体障がい者を対象とした国内大会の2部構成として開催されました。車椅子の競技者だけでなく、多くの障がい者にスポーツ参加の門戸を大きく開いたのは東京大会だったのです。その後、2004年アテネ大会からはオリンピックと共同の開催組織委員会が運営する事となり、オリンピックと併催されることとなりました。そして2年後の2020年、今の「パラリンピック」を形作った地・東京で再び、世界中の競技者が集うこととなります。

大阪市スポーツ推進委員・JPSA公認 初級障がい者スポーツ指導員 野上裕志

『私なりの万博』



1970年に開催された「日本万国博覧会」で、「人類の進歩と調和」を表現するテーマ館として、建てられた「太陽の塔」。1975年に永久保存が決まり、大規模改修工事を経て、今回の耐震補強工事とともに、内部再生工事が行なわれ、塔内部の公開が始まりました。万博当時中学生だった私が還暦を過ぎて、再び訪れた「太陽の塔」の内部「生命の樹」の存在に圧倒されました。芸術家、岡本太郎さんの偉大さを改めて感じました。当時、「太陽の塔」の構想は地下展示を見たあとに、空中展示へつなぐ4基のエスカレーターを乗り継いで右腕内の5基目のエスカレーターで「大屋根」内部に観客を運ぶ必要があったそうです。耐震工事により内部の様子は少し変わって、エスカレーターも階段になっています。現在の公開では丁寧な解説があり、ゆっくりと観ることができます。初めての人はもちろん、当時を知る人も懐かしさを感じつつ、新たな発見があると思います。大阪では、2025年開催予定の万国博覧会の誘致活動が進んでいます。色々な意味で新たな夢が膨らんでいきますね。

広報委員 萩原厚子

行事予定(9月～10月)

開催日	行事名	開催場所
毎週日曜日	日曜ふれあい喫茶	緑ふれあいの家
毎週水曜日	子ども見守り隊	通学路要所
毎週木曜日	緑ふれあいランチサービス	緑ふれあいの家
毎週火・木曜日	緑ふれあいトレーニングハウス	グリーンランドみずぎ 他
毎月第3火曜日	囲碁・将棋友の会	緑ふれあいの家
毎月第3木曜日	子育てサロン	緑福祉会館
毎月第4木曜日	ステップ教室	緑ふれあいの家
偶数月第2土曜日	緑いどばたクラブ	緑ふれあいの家
奇数月第4日曜日	地域一斉美化活動	緑地域全域
適時	地域防犯パトロール	緑地域全域
9/9(日) 10:00～	第44回鶴見区民まつり	鶴見緑地
9/17(祝) 10:00～	みどり・敬老祝賀会	みどり小学校講堂
9/22(土)	秋の交通安全教室	関目自動車学校
9/23(日) 9:00～	区民バドミントン大会	鶴見スポーツセンター
10/8(祝) 10:00～	大阪メチャハッピー祭	緑地中央噴水一帯
同日 午後の部	鶴見区民ステージ	〃
同日 夜間の部	手持ち花火大会	〃
10/14(日) 9:00～	区民ソフトボール大会	西部コミュニティ広場他
10/26(金) 夕刻	Jr.防災リーダー特別養成講座	みどり小学校体育館
10/27(土)	緑地域防災訓練	みどり小学校(暫定)



ふれあい4コマ “しあわせ家族”

【食欲の秋は食育のチャンス】

「食育」の第一歩は食材を知ること。子どもたちと一緒に買い物に行き、食材がどのように売られているのかを実際に見せましょう。食材の産地や栄養価、旬の時期なども説明しながら、おいしい食材選びのコツを教えてあげれば、子どもたちも興味をもってくれるはず。また、家庭菜園で野菜を育てるのもいいでしょう。自分で世話をした野菜が日に日に成長する姿を見ると、野菜を大切に思う心が芽生えて、嫌いだった野菜が食べられるようになることもあるようです。そして、次のステップは「料理」。刃物や火を扱うのが難しければ、ハンバーグの材料をこねるとか、皮むき器で皮をむくとか、簡単なことから手伝わせましょう。料理が完成したら、食器選びや盛り付けなどの演出を任せれば、子どもたちの達成感もグッと上がります。仕上げは、できあがった料理を家族みんなでいただくこと。「今日は子どもたちが料理を手伝ったんだよ」とお父さんに話して、料理の大変だったところ、面白かったところを聞き出してもらいましょう。そして「おいしくできたね、ありがとう。」と子どもたちの頑張りを褒めてあげれば、料理や食への関心がさらに高まるはず。もうひとつ、忘れてはいけないのは、「わたしたちは命をいただいている」ということ。生き物の命をもらって食べているのですから、すべての食べ物に感謝し、残さず食べて、命を無駄にせず生かすことが大切です。このことを教えてこそ、本当の「食育」だと言えるでしょう。

念法真教金剛寺 内野芳徳

NPO法人 緑・ふれあいの家 ホームページ

<http://midorihureainoie.jimdo.com/>

フェイスブック・ブログもあります。ホームページからご覧ください。

本紙へのご意見・お問い合わせは、NPO法人 緑・ふれあいの家へ

直接お電話いただくか、HPのお問い合わせフォームからお願いいたします。